令和２年度　武蔵野市立第四小学校　学校経営計画書

武蔵野市立第四小学校

校長　榛原　紀子

１　目指す学校

・一人一人の子供たちを家庭や地域とともに大切に育てることができる学校。

・本校の象徴であるヒマラヤスギのように大地に根を張り、絶えず向上しようとする意志と真理を追究する精神を兼ね備えた人間性豊かな児童を全ての教職員がチームワークよく育成できる学校。

２　中期的目標と方策

1. 目標

学校の教育目標である「たくましい子」「思いやりがある子」「よく考える子」「進んで働く子」の育成を中期的目標とする。具体的な児童像は次のとおり。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| たくましい子 | 思いやりがある子 | よく考える子 | 進んで働く子 |
| 実践力 | 人間関係形成力 | 問題解決力 | 社会貢献力 |
| ・心も体も健康で、外に出て友達といっしょに元気よく遊べる子・困難な場面に直面してもくじけることなく、自力で解決方法を探し努力する子・我が国の歴史や文化について学び自己に誇りがもてる子 | ・いじめをけっして許さない子（未然防止に努める子）・自分から進んであいさつがしっかりできる子・わがままな行動を自分で律し、学級や学校全体のことを考えることができる子 | ・して良いこと悪いことの区別ができ、場に応じた適切な行動ができる子・学習の課題について自力で解決しようと考えることができる子・持続可能な社会の実現を目指し環境への配慮ができる子 | ・愛校心をもち、学校のため、学級のために自分から進んで行動ができる子・係活動や当番活動、委員会活動に意欲的に取り組める子・社会や地域に貢献しようと努力できる子 |

（２）方策

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 「たくましい子」を育てるために | 「思いやりがある子」を育てるために | 「よく考える子」を育てるために | 「進んで働く子」を育てるために |
| ・運動習慣の定着や体力向上を目指し、体育科の授業改善に取り組む。・休み時間を30分間にし、校庭に出て遊べる時間を確保する。・児童が、主体的・対話的に問題を解決する場面を設け、深い学びを通して意欲や態度を養う。・自分の身の危険を予測し、回避する能力や他社を守る能力を身に着けられるよう安全教育を推進する。 | ・命を大切にし、あらゆる偏見や差別をなくす人権教育を推進する。・多様な他者と望ましい人間関係を築けるよう多様性の理解推進と人間性の涵養を目指す。・ルールやマナー、社会規範などを身に付け人としてより良く生きるための道徳教育及び生活指導を充実させる。・自己有用感を高め、自らの力を最大限に発揮できる教育を充実させる。 | ・学習活動の質の向上を図り、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業を通してあらゆる学びの基盤となる資質・能力の習得を図る。・校内の言語環境を整備し、言語活動の充実を図るとともに英語教育の充実と情報活用能力の育成を目指す。・総合的な学習の時間、プログラミング教育、武蔵野市民科の学習を計画的に実施する。 | ・児童の自主性や自治能力を高める学校行事や学級活動等の特別活動を充実させ、奉仕活動が積極的にできる心情を育む。・日本の伝統や文化に関する教育を充実させ、児童が社会とのつながりを大切にしながら地域社会の一員としてよりよい地域づくりに積極的に参加できる資質や能力、市民性を育成する。 |

３　今年度の重点目標と方策

1. 今年度の重点目標

「思いやりがある子」の育成を今年度の重点目標とする。

1. 方策

・「あいさつは心をこめて自分から　目を見て笑顔で元気よく」を合言葉にコミュニケーションのはじまりであるあいさつ指導を生活指導部が中心となり徹底し、さまざまな機会にあいさつの大切さを教え、実践できるよう児童の実態に応じた取組を行う。家庭や地域の人々にも呼びかけ、あいさつができる環境づくりをする。また、正しい言葉遣いを指導し、望ましい人間関係の育成を図る。

・清掃活動を重視し、奉仕活動の大切さを理解させ、一人一人が学校をきれいにすることで愛校心を育てる。

・いじめを決して許さないという心情を育て、互いを尊重できるように全ての教育活動の中で人権教育を推進する。教職員は、児童の実態に心を配り、いじめの未然防止と早期解決に努める。

・道徳の授業公開と地域懇談会、学校公開での道徳の授業をとおして、学校における道徳教育について家庭や地域の人々に理解を呼びかけ、児童の道徳的な実践力を高める方策についてともに考える機会をつくる。

・「特別の教科　道徳」を要として考えを深め議論する道徳を実施する。また、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度を養う。

・担任が中心となりＡＬＴとの協同的な学習活動をとおして、我が国の歴史や伝統・文化について学び、自己の誇りをもたせる。また、外国語活動・英語活動などの体験を通して、他の国の文化や習慣を理解し尊重する心を育てる。

・地域の学習材を活用し、地域で学び、地域を愛する児童を育てる。自然愛護・環境保護の視点で自らの行動を考えさせ、地球環境を大切にし、持続可能な社会の実現を目指そうとする意欲を培う。

・児童会活動やクラブ活動、委員会活動等の異年齢集団を通して、望ましい人間関係や自主性、リーダーシップを育てる。

・オリンピック、パラリンピック教育推進のため、異文化の理解と自他を認め合う心を育成する。

・体育の授業をとおし、筋道を立てて練習方法や作戦について、あるいは身近な健康について話し合うことで、コミュニケーション能力の向上を図り、良好な人間関係づくりを目指す。

・保護者による読み聞かせや年３回の読書旬間、朝読書を通し、「四小おすすめの100冊」を推奨し、市立図書館と一層の連携を図り、読書環境の整備・充実に努める。読書をとおして多様な見方考え方に気付かせ、自らを振り返り高めていける力を育てる。

・地域にある高齢者福祉施設との交流をとおし、高齢者や障害のある人たちへの理解を深め、福祉教育の充実に取り組むとともに、地域に貢献できるようにする。

・四小の森、ビオトープ、近隣の公園など身近な自然環境をフィールドとした学習を展開するとともにリサイクル等の環境保全のための教育を推進する。

・障がい者理解教育を推進し、視覚障害や聴覚障害のある方からお話を伺う機会を設けるとともに、特別支援教室の教員を中心とした個性と支援についての理解教育を実施し、差別や偏見をしない教育を行い、他者理解の態度を育てる。

・「開かれた学校づくり協議会」をはじめ、地域の方々との連携を深め、学校支援コーディネーターや地域コーディネーターを活用し、地域を学び、武蔵野を愛する児童を育てる。

・生命尊重を基盤とし、「学校いじめ防止基本方針」のもといじめ防止に向け、アンケート調査やいじめ防止等対策委員会の設置し、早期発見・解消に努める。

・セーフティ教室や保護者学習会等を通して、「ＳＮＳ東京ルール」「ＳＮＳ学校ルール」を徹底し、情報モラル教育の充実を図る。インターネット上での他者への思いやりの心を育てる。

・高学年における一部教科担任制を実施し、学年内の絆を強めると共に、安心して中学校に進学できるスムーズな接続をめざす